

能は無料で提供。情報は「空きトラック」と
 ヤパシナイ情報を対象とし、アプリの全ての機
 軽トラックから海上コンテナまで様々な空きキ
 者とコミュニケーションできる仕組みを提供。
 がある企業や組織がそれらを検索し、情報提供
 力し他の企業と共有することで、輸送のニーズ
 が発生した運送企業が、アプリにその情報を入
 が終わり、復路を空で走るトラックやコンテナ
 今回リリースする「カラトラ」は、貨物輸送

る。
 ラック輸送の効率化を求める声が高まってい
 を推進して課題を回避する一方で、根本的なト
 道コンテナ輸送や海上輸送へのモダリティシフト
 時間化する傾向にあり、企業はトラックから鉄
 ることが予想され、ドライバーの労働時間も長
 今後も需要と供給のアンバランスが大きくな
 っている。
 ライバリの需要数は実在のドライバー数を上回
 る小口配送頻度の増加などにより、トラックド
 建設貨物輸送の増加や、ネット販売の増加によ
 して認識されており、東京オリンピック関連の
 不足は経済に大きく影響を与える深刻な問題と
 近年、輸送業界におけるトラックドライバ
 となる。

トレイドシフトジャパン（本社・東京都渋谷
 区、大久保紀章社長）は、NPO（非営利法
 人）エスネット（藤本治生理理事長）監修の下、
 物流の効率化によるドライバー不足の緩和や温
 暖化ガス排出削減を目的とした、輸送の空きキ
 ヤパシナイを有効活用し、トラック走行距離
 の短縮やドライバーの作業効率の向上などによ
 り、収益向上と温暖化ガス排出量の削減が可能
 となる。

輸送の空きキャパシティーを有効活用するアプリを無料提供

貨物輸送ニーズをマッチングし、ドライバー不足を緩和
 トレイドシフト

より、深刻度が最も高いレベルとなる事故を
 「重大事故」として今年度中に分析する。
 懇談会では、関谷和孝関東支部長（東京油
 槽）が講演を振り返り、「危険物の事故事例を
 心、頭に入れて事故のないタンクターミナルを
 めざそう」と挨拶。懇談会では危険物流のト
 た。土井政之関西支部長（アスト）が閉会の挨拶
 を担当し、「この会がますます発展してきて
 いるのは小幡会長（内外輸送）のおかげ。これ
 からも発展していきたい」と述べた。

「空きコンテ
 ナ」の2つのカ
 テゴリーに分類
 され、発地と着
 地、サイズ、種
 類、台数、期間
 などの情報を入
 力することで、
 それらを求める
 企業とリアルタ
 イムに情報を共
 有することがで
 きる。

情報は公開範
 囲はアプリを使
 用する全企業・
 組織、または特
 定の企業・組織
 間に絞って共有
 することが可能。
 広く空きキャ
 パシティーの利
 用者を公募した
 い時だけでな

く、企業内や普段からキャパシティーを融通し合
 う運送企業間の情報共有、コンテナラウンデュ
 ースを行う際のマッチング相手を募集・探す場
 など、多目的で利用できる。
 さらに、「TradeShift」の基本機
 能である電子見積書、電子注文書、電子請求書
 と組み合わせることにより、空きキャパシティー
 のマッチングから見積、発注、請求まで全てを
 オンラインで行うことができ、テレワーク環境
 の整備による在宅勤務の推進や、取引の電子化
 に活用することが可能となっている。

